

濟ニ徹底セズンテ然カモ物ト金トノ均衡ヲ擾亂シ、通貨ノ放漫支出ヲ以テ戦力増強ヲ促進シ得ベシト妄斷シテ經濟原則ヲ無視スルニアリ。今ヤ國家存亡ノ關頭ニ立ツ、從來ノ行懸ヲ棄テ、直チニ其ノ病弊ヲ矯ムルノ果斷ト氣魄ヲクンバ如何ニシテ此ノ急激ナル局面ノ推移ニ明瞭スルコトヲ待ンヤ。

#### 第四 施 策 要 領

##### 一、國民生活確保上ノ諸施策

國民ノ戰時生活ヲ規正シ、日常生活必需品ノ需要量ヲ最低限度ニ壓縮スベキハ勿論ナルモ、事其ノ度ヲ過グレバ國民ノ活動力ヲ殺滅スルニ至ル、卑近ノ例ヲ以テスレバ下足製造ノ壓縮ニ因ル履物缺乏ガ日々ノ活動ニ甚シク支障ヲ與ヘツ、アルハ周知ノ事實ナリ。然レドモ最モ眼目タルモノハ素ヨリ食糧ニ在リ、一般國民ニ對シテ少クトモ當局ノ配給量ニ依ツテ最低限度ノ生活ヲ維持セシメ

得ルダケノ食糧ヲ確保スルコトハ絕對ニ必要ニシテ、之ガ充足ヲ要スル限り極力増産ヲ圖ルト共ニ其ノ配給ノ合理化ヲ徹底スベキナリ。

イ、一發國民ニ對シ食糧配給ノ絕對量ガ最低限度ノ生活ヲ確保シ得ザル限り國民ノ買出ヲ抑止シ得ザルハ勿論、食糧ノ騰取引ヲシテ益々必至ナラシメ、悪性インフレノ普遍化ヲ此ノ點ヨリ激發セシムル危險アリ。速カニ最低限度ノ食糧配給確保ノ措置ヲ講ズルコトヲ要ス。

ロ、食糧ノ配給ガ最低限度ニ達セザルモノニ就テハ、之ガ増産ヲ圖ルト共ニ極力食糧ノ隱匿、偏在ヲ是正スベク食糧管理ノ機構ト之ガ運営ニツキ根本的ニ檢討ヲ加へ、苟モ實際上ノ配給ガ豫定數量ニ達セザルガ如キ缺陷ハ當然是正サレザル可ラズ。

ハ、食糧ノ集荷及ビ運送ノ不備ニシテ綜合的計畫性ヲ缺ダガ爲メニ配給可能量ノ減少ヲ來タシ、臨時均等ノ配給ヲ持續シ得ズ且

其ノ機動性ヲ發揮シ得ザル憾アルヲ以テ急遽之ガ改善ヲ要ス。

ニ、食糧ノ配給ニ關シ町會、隣組等ニ對スル實際的負擔ヲ適當ニ重化セシメラレツ、アル今日、ナホ中間的配給機關ヲ存続セシムルハ徒ラニ從來ノ自由主義經濟ノ營利的商人ノ温床タラシメ、配給ノ不公正、不充分ヲ來タスノミナラズ、情實ノ横行トナリ、甚シキハ正當ナル配給量ノ三割乃至四割ガ中間ニ於テ横流レヲ見ルノ情況ニアリ。茲ニ重大ナル開行爲ノ激化ノ禍因ヲ存スルヲ以テ急遽配給統制機構ノ改革ヲ果敢ニ斷行スルコトヲ要ス。

### 三、食糧生産増進上ノ諸施策

國民生活ノ安定ニ關シ食糧ノ最低限度ヲ確保スルハ戰爭繼續上ノ根本的條件ナルヲ以テ極力食糧ノ増産ヲ圖リ、之ガ供出並ニ運送ノ合理適正化ヲ圖ルハ緊急ノ要務ナリトス。

イ、食糧ノ増産ニ關シ一貫シタル計畫ヲ樹立シ、之ガ關係機關ヲ一元化シテ、合理的ニシテ且有機的ナル機動性ヲ發揮セシムベ

ク、殊ニ農業團體其ノ他ノ指導ヲシテ從來ノ如キ農民本位ノ觀念ヲ清算セシメ、綜合的總戦力ノ増強ニ同テ透徹セシムルコトヲ要ス。

ロ、農民ノ供出ト之ニ對スル獎勵方法ニ就キ從來ノ如キ營利觀念ヲ刺戟スルガ如キ施策ヲ止メ、農民生活ノ確保安定ト聯絡セル手段ニヨリ増産感ヲ促進セシムルコトヲ要ス。

ハ、殊ニ種苗、肥料、勞務、生活必需品等ノ供給及ビ配置ニ關シ有機的ニ合理化シ、相互關聯シテ自發的效果ヲ發揮セシムルヤウ措置スルコトヲ要ス。

ニ、山林經營ニ關シ木材並ニ燃料ノ確保ヲ圖ルト共ニ一面適當ナル食糧ノ増産ニ利用スルノ措置ヲ講ズルノ要アリ。

ホ、水産漁業ノ機構及ビ運営ニ關シ計畫性ヲ與へ、必需資材ノ供給、水産品ノ保存、加工、運送等ニ就キ戰時的措置ヲ講ズルコトヲ要ス。

へ、等ニ食糧並ニ燃料ノ運送ニ就テハ優先敏速ナル運送ヲ確保スルコトヲ要シ、之ガ爲メニ鐵道兵ノ他ノ交通機關ハ勿論、小運送機關ノ機構並ニ運送ヲモ整備改善スルト共ニ驛傳方法ヲ新シク考案シテ之ガ適切ナル效果ノ發揮ヲ圖ルベキナリ。之レ一般ノ配給ヲ確保スルト共ニ買出ヲ抑制シテインフレ敵化ヲ防止シ得ル所以ナリトス。

### 三、戦時生産増進上ノ諸施策

戦時生産増進上、現状ニ徴シ最モ弱點トスベキハ綜合生産企業機能ノ不備ニ在リ。關係主務官廳ノ一元化ニ就テハ軍需省創設以來多少ノ進捗ヲ見タルモ、實際上ノ運営ニ於テハ必ラズシモ徹底セズ。嘗ニ企業ニ綜合的統一ナキノミナラズ、セクシヨナリズムノ弊ハ依然トシテ除去サレズ、確乎タル見透ニ基ク計畫ノ一貫性ナキタメ、當面ノ行進ト狀勢ニ押サレ、徒ラニ混雜ヲ來タスノミニシテ、國家總生産力ノ綜合的機能ヲ發揮シ得ザルノミナラズ、

官廳ノ機構弄リト機構倒レトハ到ル所生産機構ニ反映シテ眞ノ機  
動性ヲ缺クニ至リ、殊ニ生産能率ノ低下ハ感ニ憂慮スベキモノア  
リ。此ノ際眞ノ重點的生產増強ヲ徹底スベク新乎タル改革的措置  
ヲ要請セザル可ラス。

イ、政府ノ生産發註ハ多元的ニシテ、時期、品種、發註方法等ニ  
統一、綜合及ビ聯繫ナク、其ノ結果設備ノ重複ヲ來タシ、資材  
勞務ノ配置不適正トナリ、受註ハ偏在シテ能力ト相應ゼズ、生  
産計畫ハ常ニ不安定トナルヲ免レズ。若シ現状ニ於テ受註ノ統  
一一元化ヲ斷行スルナラバ、ソレノミニテモ直チニ生産額ノ倍  
加ヲ來タスハ必ラズシモ不可能ニ非ザルナリ。

ロ、常面ノ決戦ニ絕對的ニ必要トスル兵器、彈藥其ノ他ノ軍需物  
資ハ質量共ニ優秀ナルヲ要シ、大量生産ノ徹底ガ要請セラレザ  
ルヲ得ズ。然ルニ大量生産ノ絕對的條件タル資材規格ノ統一化  
ト單純化ニ缺クルタメ生産能率ノ低下ヲ來タスノミナラズ、相

互ノ共通利用性ヲ發揮シ得ザルモノアリ。コレ軍需資材風格ノ  
統一單純化ノ緊急ナル實施ヲ要スル所以ナリ。

ハ、各種主要資材ノ生産力ガ相互間ニ均衡ヲ得ザルタメ一部ノ資  
材不足ニヨリ全面的ニ生産ノ停頓ヲ招來スルモノ尠ナカラズ。  
コレ軍需生産計畫ノ綜合的統一ト有機的聯絡ヲ缺ク結果ナルヲ  
以テ、關係官廳間ノミナラズ民間業者間ニ於テモ、綜合的機能  
ヲ達スベキ機構ト運営ヲ確立スルコト必要ナリ。

ニ、軍需生産力ノ基盤ヲナス龐大ナル下請協力工場ニツキテハ親  
工場間ニ之ガ爭奪行ハル、結果、親工場ヨリスル放漫ナル所謂  
「外駐機」等ノ濫越ニナレテ合理的運営行ハレズ、宜シク之ガ  
整理統合ヲナスベキモノアリ。至長補災下請工場ノ處理ニ當ツ  
テハ統制アル企劃的復舊又ハ整理統合ヲ行フノ機會ヲ逸ス可ラ  
ズ。且又下請工場ニ對シテハ組織整備ト共ニ日進月歩ノ技術的  
向上並ニ能率發揮ヲ期シテ一定ノ計畫ノ下ニ、之ガ指導監督ヲ

一段ト徹底徹底スルノ要アリ。

ホ、企業ハ政府筋ノ權力ナル發註ト指令トガ餘リニ瑣末的ニ過グ  
ル結果融通性ヲ失ヒ企業者ハ之ニ束縛セラレテ其ノ創設ハ萎縮  
ヲ免レズ。爲メニ企業運営ノ目的的改善ニ積極性ヲ缺クニ至ル。  
宜シク政府ハ發註モ指令モ無益ニ瑣末ニ廻ラズ、實行上ニツキ  
テハ大概業者ニ一任シ、之ニ責任ヲ負荷スルト共ニ其ノ創設ノ  
能率的發揮ヲ促スベキナリ。

ハ、軍需資材ノ配給機構ニ就テモ整備ヲ要スルモノアリ。適正ナ  
ル重點主義ニ基ク機宜ノ配給ニヨリ資材ノ偏在、無駄使ヒ、不  
活用等ヲ極力防止セザル可ラズ。殊ニ騰取引ノ徹底ハ不適切ナ  
ル配給機構ノ運営過程ニ於テ最モ甚シキモノアルヲ以テ、資材  
配給機構ノ整備ト適正配給ノ徹底ハ實ニ戦時生産ノ増強ヲ期ス  
ル絶對要件ナリトス。尙配給ニツキ留意ヲ要スルハ軍需品、目  
用必需品ノ生産ニ要スル機械器具修繕ニ要スル資材ノ配給ナリ。



蓋シ修理用資材ノ缺乏ガ生産能力ノ減退ヲ來セルコト懸念シ難キモノ存スルナリ。

ト、勞務ニ關シテモ其ノ配給ノ適正ヲ圖ルベク、初動計畫ト無關係乃至不均衡ナルガ爲メニ勞務ノ偏在ト過不足ヲ來タン、資材ト同様勞務ノ調取引ヲ達成スルカ故ニ速力ニ改革スルコトヲ要ス。尙勞務ニツキテ考慮スベキハ勞務者ノ靈敏ト能力トニ即應スベキ配置ナリ。元來生産機械ノ新編成ガ動モスレバ生産組織ノ混亂ヲ招來セルモノアル一方勞務ノ非能率的配置ニ墮セルコトハ生産減退ノ主要原因ヲナセル所ナリ。

チ、事務、經理、就業ノ何レヲ問ハズ一切ニ涉ツテ能率ノ低下ハ莫ニ怖ルベキモノアリ。殊ニ空想ニ關聯シテ之ガ措置ニ就キ適切敏捷ナル勇斷ヲ要請セザルヲ得ズ。最近生産軍創設ノ間題ト關聯シテ職場死守ヲ叫バル、モ、工員ヲシテ安ンジテ就業シ業ンデ能率ヲ發揮セシムルノ施設並ニ指揮ナクシテハ徒ラニ空辭

空言ニ終ランノミ。

リ、企業体罰ニツキ最近民有國營ニヨル軍需生産ノ増進ヲ圖ルノ方針加ハル。警戒ヲ受スルハ此ノ体制ニ依ル企業運営ガ往々ニシテ能率ノ低<sup>下</sup>、經理ノ放漫ヲ來スコトナキヤニアリ。敵側ガ國有民營体罰ヲ採リ來レル所以モ亦他山ノ石タラザルニアラザル可シ。

#### 四

價格形成機構ノ整備ト價格統制ノ適正強化

從來ノ我が物價統制ノ基本ハ支那事變ニ對處セルモノナルヲ以テ、大東亞戰爭以降ノ我が戰時經濟ノ變貌ニ相應ゼザルモノナカラス。又政府モ最初程ニ熱心ヲ付置セザリシ爲メ漸次公定價格ハ名目化シテ實際價格ト隔斷スルニ至リ、殊ニ昭和十八年十一月十九日閣議決定ノ「軍需省創設ニ伴フ物價政策措置」ニヨリ政府補助金乃至調辨價格制ノ實施セラル、ニ及ンデ物價統制ハ益々混亂ヲ來タスニ至リ、調取引ノ横行ハ惡性インフレノ激化ヲ見テ正

ニ經濟的破局ヲ招來センモ圖リ難キ情勢ニアリ。況ンヤ物價政策  
上中心的統制機構ノ強固ナルモノ、決如セル以上、總物價ノ統制  
又一段ト加ハラザルヲ得ザルヲ以テ、物價統制ノ實勢ハ根柢ヨリ  
崩壊スルノ恐ナシトセズ。刻下ノ急務ハ物價統制ヲ根本的ニ建直  
シテ價格形成ノ機構ヲ徹底的ニ整頓スルト共ニ價格統制ノ適正強  
化ヲ達成スルニアリ。

イ、公定價格ヲシテ現實ノ經濟狀勢ニ適應セシメ、以テ其ノ名目  
化乃至有名無實化ヲ防止センガ爲メニハ、勢クトモ生活必需品  
並ニ軍需資材ニ關シ重點的統制ニヨリ根本的ニ公定價格ノ一大  
改訂ヲ行ヒ、之ガ綜合的合理化ヲ圖ルト共ニ之ガ徹底ヲ期スル  
ニアリ。

ロ、公定價格ノ改訂ニ當リ、徒ラニ圖價格ニ追隨スルガ如キコト  
ニナラザル線刻下ノ戰時經濟ノ緊急要請ニ適合セル確乎タル基  
準ヲ決定スルコト必要ナリ。

ハ、價格制トシテハ現實ニ即應スル單一價格ヲ原則トスルコト、  
ナスベク、補助金乃至二重價格制等ニヨリ反ツテ政府關係物資  
ノ蒐集ガ間價格ヲ存続スルガ如キコトナカラシムルヲ要ス。單  
一價格ハ顯チ生産原價ヲ低位ニ確保シテ生産能率ヲ昂揚セシメ、  
放漫經營及ビインフレ激化ヲ防止スル所以トナル。

### 五

勞務税制ノ適正化ト自由勞働者ノ組織化

總價格ノ跳梁トインフレノ激成ハ勞務ニ就テモ物價ト同様ニ重  
大ニシテ、之ガ適正化ヲ徹底セザレバ惡性インフレニヨル經濟破  
綻ヲ防止シ得ザルナリ。之ガ爲メニハ勞務動員計畫ニ基ク勞務ノ  
配置補給ヲ確保セザル可ラズ。殊ニ勞務ニ關シテハ寧ろ勞働者ノ  
生活安定乃至厚生施設ト關聯セシム可ク、單ナル勞務操作ニノミ  
依存スルコトハ極力之ヲ避クルノ要アリ。

イ、勞務税制ニ關スル從來ノ制度ハ實際ニ於テ總勞銀ノ氾濫ノ爲  
メ有名無實化シツ、アル現狀ナルヲ以テ、勞務ノ統制配置ノ適

正化ヲ圖ルト共ニ、勞銀ニ關シテハ此ノ際綜合的ナル新シキ基  
準ヲ確立シテ其ノ統制ヲ徹底スルコトヲ要ス。

ロ、從來企業者間ニ於ケル勞力爭奪ノ外、疎開、罹災等ノ事應發  
生ニ連レ關勞銀ノ横行愈々甚シキモノアリ。惹テハイインフレヲ  
激化シ勞働意慾ノ減退低下ヲ來サシム。即チ勞銀統制ノ強化ニ  
關シ適切ナル施策ヲ考慮スルコト必要ナリ。

ハ、自由勞働者ノ組織化ニ關シテハ、厚生ト共ニ監督及ビ指導ノ  
觀點ヲ加味シテ包容スルコト肝要ナルヲ以テ、警察關係ノ外陸  
海、軍需、厚生等ノ關係官廳ト民間業者間トノ協力ニ俟ツベキ  
モノ多キニ居ル。

#### 六

物資交流促進政策ノ徹底  
生産擴充ノ促進、資材ノ入手難ニ幅ヘテ物資手持高ノ増加ヲ招  
來セル外、關取引ニヨル暴利ヲ狙ツテ物資ヲ保藏スルモノアル結  
果、物資ノ交流極メテ停頓シ、退職養休資材ノ數量徒ラニ増嵩シ

テ戦力ノ増強ヲ妨グ。然カモ之ガ調査ハ頗ル不徹底ノ状態ニアリ。所謂ストツク資材ノ解放ト之ガ繼續敏速ナル交流ニ就テハ強力ナル統制政策ノ發動ヲ要スルモノアルナリ。

七 未完成工事ノ停止ト設備資材ノ適正ナル急轉用

未完成工事ノ停止ト設備資材ノ急轉用ハ現ニ採用サレツ、アル方針ナルモ、其ノ實行ニ至ツテハナホ、頗ル手緩キモノアリ。時局ノ要請ハ緩慢ナルヲ許サズ之ガ急進ナル實行ヲ緊急必要トシツ、アルナリ。勞務ノ轉用再配置ニ就テモ亦然リトス。

尙又罹災工場ノ統制アル整理、統合、復舊ニツキテモ迅速ナル措置ヲ必要トス。

八 運送統制ノ整備強化ト交通通信機構ノ保全

運送機能ノ弱体ナルハ戦力増強上ノ一大隘路ナルヲ以テ戦力之ガ効率化ヲ圖ラザル可ラズ。物資ノ獲得ニハ先ヅ運送上ノ便宜ヲ有スルモノガ優勢ニアル現状ニシテ、從テ國運實ハ法外ナル跳梁

ヲ示シ、又其ノ運送費ノ増高ハ一面物資ノ流動ヲ阻害スルコト大ナルモノアリ。即チ輸送運営ノ改善、殊ニ小運送統制ノ適正ナル整備強化ト圓滑敏速ナル活用トハ物資配給ノ合理化ト密接ナル關係ヲ有シ輸送費ノ調整ハインフレ防止ノ有效ナル施策タル所ナリ。而シテ小運送ノ圓滑敏速化ヲ圖ル爲メニ勤勞奉仕ニヨル驛傳制度ノ採用ノ如キ最モ考慮ヲ要スル所ナル可シ。交通及通信機器ノ敏活ナル動キハ國家總力戰ノ遂行上根本的要件ヲナスハ言ヲ俟タズ。然ルニ用務ハ益々多キヲ加フルニ反シ業務者ノ人員ハ減少ノ已ムナキ實情ニ加ヘテ、敵ノ空襲ニヨル被害モアリ、之カ機器ノ確保決シテ易々タル能ハズト雖モ、萬難ヲ排シテ其ノ能率ノ保持ヲ圖ラザル可ラズ。近時交通ノ障害、電信電話ノ不通又遅延等線路以上ニ退化セルノ實情アルハ工夫努力ノ缺如セル所ナキヲ保セズ。檢討是正ノ要請セラル、ヤ切ナルモノアリ。

## 九 金融資金面ノ施策

戦費運営、戦力増強ノ爲ニハ勿論、インフレ抑止ノ上ニ金融資金政策ノ宜シキヲ得ルコトハ根本的條件ナリ。然ルニ財政面ト共ニ金融資金ニ就テモ從來ノ運営措置ハ必ラズシモ妥當ナル推移ヲ齎ラサズ、放漫ト非効率トハ資金ノ浮動滞留ヲ増嵩シ來レリ。然カモ空爆其ノ他ノ災害、工場其ノ他ノ疎開等ニ對スル措置トシテ、政府保障ニヨル麗大ナル資金ノ放出ヲ提ヘタル現在ニ於テ、餘程ノ徹底セル決意ヲ以テ對處スルニ非ンバ戦時經濟体調ノ脆弱性ガ金融資金面ニ於テ加ハラントセルハ嚴ニ戒心ヲ要スル所ナリ。現ニ空襲罹災地域ニ於テノミナラズ、罹災懸念アル不安地域ニ於ケル貯蓄心ハ薄弱トナリ、國債ノ消化ハ減退シ來レリ。又疎開、罹災ニ關聯シテ國物價、國貨銀ハ更ニ暴騰シ然モ其ノ間撤布サレタル資金ニシテ地方ニ流れ行ケルモノ尠ラズ、之カ還元作用ハ鈍化セリ。最近ニ於ケル日銀券發行高ノ著シキ累増ヲ見ツ、アルハ閑



却シ難キ所ナリ。元來經濟上其ノ移動性極メテ敏感且微妙ナル金  
融資金ノ運賃ハ一度之ヲ騰ランカ其ノ結果ハ收拾シ得ザルモノア  
ルニ至ランノミ。之金融資金ニ就キ得ニ嚴密正確ニ經濟原則ヲ勘  
考シタル處置ヲ講シ須臾モ看過ヲ許サザル所以ナリ。之ガ爲メニ  
ハ廣ク軍、官、民全般ノ關心ヲ深ムルト共ニ眞摯ナル省察ヲ要請  
セザルヲ得ザルナリ。

#### イ、資金尊重觀念ノ徹底化

資金ノ放漫ナル使用ハ惹イテ通貨ニ對スル不信ヲ招來スルニ  
至ル、資金尊重觀念ノ保全ヲ要スルナリ。之ガ爲メニハ國民運  
動トシテ渺クトモ資金壓置ノ適正化ト相俟テ資金ノ濫費ヲ戒シ  
メ、一般民衆ノ間ニインフレノ國民生活ニ及ボス謗ヲ宣傳シ、  
戰時生産ヲ破滅ニ至ラシムル所以ナルコトヲ認識セシメ、國行  
爲ガ結局利敵行爲ニ外ナラザルコトヲ周知セシメザル可ラズ。  
況ンヤ國行爲ヲ默認乃至獎勵、進ンデ之ヲ必至的ナラシムル事

懸ヲ許スガ如キハ國家存亡ノ今日、自ラヲ破滅ニ陥レルモノニシテ斷シテ許スベカラザルハ旨ヲ俟タザル所ナリ。

ロ、資金放出ノ適正化

資金ノ放出ハ其ノ對象ニ於テ、其ノ數量ニ於テ、其ノ時期ニ於テ、合理且妥當ナラザルベカラズ。此ノ方針ニ就テハ資金調整ノ運用等ニヨリ昨今漸ク具體的推進ヲ見ルニ至レリト雖モ、根本ニ於テ資金計畫上ノ弱點ニツキ尙檢討ヲ要スルモノアリ。現ニ資金計畫ニハ其ノ計畫ト実績トノ間ニ大ナル峻違ヒヲ生ジツ、アルガ、コハ生産ガ豫定以上ニ増大セシコトニ基因スルニハ非ズシテ、調辨價格ヲ前提トスル放漫ナル經營並ニ資材、勞務其ノ他ノ間取引入手等ニヨリ全面的ニ物價勞銀ノ昂騰ニ基因スルコト其ノ最モ多キニ居ル所ナリ。元來資金計畫ハ物動計畫トノ適正ナル均衡ヲ保持スベキ次第ナルガ、實際上資金計畫ニ對スル要求ヲ見ルニ、物動上ノ水増シ的要求ヲ基準トシ、之ニ

要スル資金計畫モ必要額以上ニ要求スル傾向アルヲ以テ、資金ハ極メテ不合理ニ多額ニ放出サレ放漫濫費ノ弊ヲ招來セザルヲ得ズ。若シ夫レ國家ノ歲計ト雖モ水増シ物動ニ加フルニ更ニ物價ノ含蓄ヲ以テ編成セラレンカ、其ノ膨大率ハ蓋シ思ヒ半ニ過グルモノアラン。最近行ハレツ、アル政府前渡金支出ノ調整ノ如キハ機宜ヲ得タルモノニシテ更ニ之ガ適正ナル徹底ヲ期スベキナリ。

#### ハ、資金使用ノ効率化

適正ナル資金放出モ之ガ效率的使用ヲ圖ラザレバ更ニ通貨ノ膨脹ヲ惹記スルニ至ルベシ。現金通貨ノ節約ハ此ノ際種々ノ観点ヨリ緊急ヲ要ス、從來企業整備資金、保險金、疎開資金、賣買取引資金等ニ就キ現金支拂分ニ一定ノ限度ヲ設ケ來レルモ、現在ノ如キ物價窮屈トナリ、生活必需品ガ殆ド配給物資ニ限定サル、ニ至レル以上ハ、事實上多額ノ現金使用ノ必要ナキニヨ

リ、現金支拂分へ更ニ其ノ限度ヲ減縮シ得ベク、出來得ル範圍ニ於テ更ニ金額ヲ銀行預金ノ形ニ於テ取扱フノ方途ヲ推進スベキナリ。現在濶取引ノ如キ現金ノ需要ヲ著シク増大シツ、アリ、然カモ現金ノ増嵩ニヨリテ又濶取引ヲ助長シ、結局悪性インフレヲ促進スルノ禍因ヲ醸成シツ、アリ。企業經理ノ合理化ガ要望サル、所以モ亦費セズシテ暇カナリ。

### ニ、資金使用上ノ監査強化

今日ノ實情ニ鑑ミルニ資金放出ヲ適正ニシ、其ノ使用効率ヲ向上セシムル爲ニハ、資金運営ノ事前及ビ事後ニ於ケル監査制ヲ確立強化スルコト必要ナリ。生産増強ノ急ヲ要スル事態ニアリトハ云へ軍需生産ノ資金使用ニ對シテ金融業者側ノ參畫ガ殆ド考慮セラレザリシハ資金ノ効率ヲ低下セシメタル一因タルコトハ認めザル能ハズ。尤モ資金放出面ニ於ケル金融業者側ノ態度ニ於テモ必ズシモ反省スベキナカリシニハアラズ。今回ノ軍

需金融等措置法ノ公布ハ誠ニ時宜ヲ得タルモノナルガ、此ノ法  
ノ運用ニヨリ果シテ金融業者側ノ影響並ニ發言ガ相當力強ク反  
響シ得ベキヤハ尙未知數ナリ。特ニ資金ノ運営ニ對スル監査ハ  
中途半端乃至形式ニ止マルニ於テハ效果ナクシテ却テ手數ノ煩  
累ヲ加フルニ終ルベク、實際ノ運用ニ當リ充分ナル效果ヲ目途  
トセザルベカラズ。猶獨リ資金供給ノ事前事後ニ限ラズ常時軍  
需金融ニ關シ指導監査ノ副ヲ置クモ亦意義アル所トス。

ホ、浮動乃至潜在購買力吸收ノ徹底化

流通面ニ現ハレテ浮動購買力タルモノヲ吸收スルハ勿論、退  
藏サレテ潜在購買力タルモノモ亦何時ニテモ流通面ニ出現シテ  
インフレ促進ノ可能性ヲ有スルガ故ニ極力之ガ吸收還元ヲ圖ラ  
ザル可ラザルハ勿論ナリ。殊ニ租税増徴並ニ貯蓄獎勵ノ重大ナ  
ル意義ニ就テハ今更言フヲ俟タザル所ニシテ、施策ニ更ニ新構  
想ヲ要スルヤ切ナルモノアリ。而シテ時局下ノ新興所得層ヲ目

指シテノ資金吸收ハ最も大切ト云フベク、自由労働者ノ組織化ノ如キハ購買力吸收上ノ前提工作トシテ極メテ重要事ニ屬スルナリ。要スルニ資金ノ循環性ヲ保全シツ、餘剩購買力ヲ吸收スルハ金融通貨政策ノ要諦ニシテ之ニ對スル施策相當複雜セル構想ヲ必要トシ茲ニハ之カ具體的救済ヲ措ク。

#### へ 外域インフレノ影響防止

現下ノインフレ激化ニ關シ、第一次大戦後ニ於ケル劇逸インフレニ比較シテ、其ノ外域爲替ニヨルインフレ無キヲ以テ心配ナシトナスモノアレドモ、今日ノ我ガ外域ニ於ケルインフレハ爲替インフレト同様ノ影響ヲ我國經濟ニ與フルモノナルコトハ看過シ得ザル所ナリトス。從ツテ外域インフレニ對シ之ガ影響防止ハ更ニ眞剣ニ考慮セザルベカラズ。今日外域自体ニ於ケルインフレノ防止ガ既ニ頗ル困難ナルニ至レル現狀ニ座シテ、素ヨリ速效アル施策ヲ求ムルハ易カラズト雖モ、緊密ナル關係ニ

アル是等外域情勢ノ救治ハ我ガ方トシテモ絶命題ニシテ、過去ノ拙ナリシ曲折ニ因ハレズ大局ニ善慮シ之ヲ急速果敢ニ斷行スベキナリ。

## 一〇 財政面ノ施策

戦局ノ進展ハ昭和二十年度豫算ノ純計ヲシテ一千十八億千八百六十餘萬圓ヲ超エ、之ニ空懸其ノ他ノ災害措置ニ關スル追加豫算ヲ加フルトキハ一千五十億ニモ及ブベク、今ヤ國家財政ハ未曾有ノ巨額ニ達スルニ至レリ。然ルニ之ニ對シ年々増新稅ヲ以テ増收ヲ圖リツ、アレドモ猶且其ノ租稅收入ハ國費ノ二割七分ヲ支辨シ得ルニ過ギズシテ、國債ノ發行益々龐大ヲ加ヘツ、アル状態ナリ。然カモ戰費ノ急激ナル需要増加ハ愈々緊急ヲ要スルモノアルヲ以テ、政府ハ之ニ對シ極メテ堅實強硬ニシテ且勇猛果敢ナル措置ヲ講ゼザルベカラズ。殊ニ此ノ巨額ノ國費ガ國內ニ放出サル、マ、ニ放置スルナラバ、悉ルベキ浮動購買力ノ増加ヲ來タシ、悪性イ

六十期法... 二十一年... 一千十八...

インフレノ動因トナルベキヤ必セリ。故ニ政府ハ國民ノ消費節約、貯蓄獎勵等ニ就キ一層努力ナル措置ヲ講ズルト共ニ、政府自体ニ於テモ國費ノ支出ニハ極力慎重ヲ期シ緊縮節約ヲ期スベキナリ。斯クシテ一方ニ於テ財政支出ノ適切ナル減縮ヲ圖ルト共ニ、他方ニ於テ普遍有效ナル租稅ノ増徴ニヨリ浮動購買力ノ吸收ニ資セザルベカラズ。インフレ防止ニ對シ最モ強力ナル效果ヲ與ヘ得ルモノハ、國家財政ノ借置運営ニアルヲ以テ、國家危急ノ今日藩體制ニ因ハレザル構想ノ下ニ現狀ニ關シテ徹底セル借置ノ漸行ヲ要請セザルヲ得ザルナリ。

イ、財政運営堅實化ノ徹底

決戦ニ緊急必要ナル軍需生産ト其増産ニ關シテハ如何ナル國費ノ支出モ躊躇スル所ニ非ザレドモ、唯放漫ナル財政支出ハ必ラズシモ所期ノ目的ヲ達成スル所以ニ非ズ、反ツテ開行爲ヲ朝殺シ物賣勞務ノ昂騰ヲ來タン、計畫通りノ效果ヲ收メ得ザル



ニ至ルモノアルコトヲ看過ス可ラズ。殊ニ其ノ結果トシテイ  
フレノ激化ヲ來タスハ嚴ニ警戒ヲ要スル所ナリ。然ルニ從來財  
政支出ノ實情ニ徴スルニ、種々ノ各目ノ下重複シテ必要以上ノ  
不適正支出ヲ見タル場合モ尠ナカラズトセラル。果シテ然ラバ  
此ノ際政府ハ財政ノ運営ニ關シ慎重ヲ期シ、以テ悪性インフレ  
ノ抑止ニ一層意ヲ用フベキナリ。

ロ、國家ノ保障支出ニ對スル統制及ビ責任ノ強化

戦局ノ緊迫ト空爆ノ激化ニ伴ヒ、國費ノ支出ハ動モスレバ統  
制ヲ失ヒ混亂ニ陥ルノ恐アルヲ以テ、當面ノ必要ニ對シ敏捷適  
切ナル機動性ヲ失ハザル範圍ニ於テ、極力統制ト節度ヲ強化シ  
テ放漫濫費ニ流レザルヤウ戒心スベキナリ。殊ニ國家ノ保障ニ  
基ク支出ニシテ現在正確ニ計量シ得ザルモノニ就テハ特ニ然リ  
トス。空爆其ノ他ニヨル災害ノ救済ヤ工場疎開ノ經營補助等ニ  
就テハ殊ニ適切ヲ期スルト共ニ其ノ責任ノ強化ヲ圖ルベキナリ。

ハ、福利ノ補助金、報償金、奨励金等ノ整理

軍需生産及ビ食糧増産ニ關シ兵ノ創意ト能率ヲ發揮セシムルハ刻下ノ緊急要務ナルモ、之ハ必ズシモ營利私益ノ追及ヲ利戟スル方法ニ據ルヲ以テ適切トハ云ヒ難ク、亦所期ノ效果モ收メ得ザルモノアルナリ。即チ政府ノ補助金、報償金、奨励金等ノ細キ手段ニノミ訴ヘルコトハ一面インフレ激化ヲ促進スルノ弊賣ニ陥リ易キコトヲ思ハザルベカラズ。寧ロ此ノ際此ノ際政府支出ニノミ依存スルコトナキ方策ヲ講ズルノ要アルナリ。

## ニ、國庫收入ノ増強

空爆其ノ他ノ災害、工場疎開等ニヨリ今後ハ國費ノ支出ガ益益増大セラルベキニモ拘ラズ、惟災者ニ對スル減免稅其ノ他ニヨリ國庫ノ收入ハ反ツテ減少スルノ悉アルニヨリ之ガ對策ヲ考慮セザルベカラズ。況ンヤ我國民ノ租稅負擔ガ他ノ交戰國ニ比シ甚ダ渺キコトハ財政ヲ堅實ナラシムル所以ニ非ザルニ於テオ

ヤ。此際國債ノ消化ヲ圖滑ナラシムル爲ノ貯蓄奨励ノ方策ヲ改  
善強化スルト共ニ稅源ノ變化ニ即應シテ増新稅ニヨル租稅收入  
ノ増徴ヲ圖ルコト必要ナリ。殊ニ戰時利得ノ増大シタルモノニ  
對シ課稅ヲ増強ス可キハ勿論、一般ニ課稅所得ノ範圍ヲ擴張且  
普遍化シテ各所得間ノ均衡ヲ圖リ稅率ノ適正ナル改訂ヲ加フベ  
ク、自由労働者等所謂新興所得階級ニ對シテハ特定ノ登録額ニ  
ヨリ之ヲ組織化シテ相當高率ノ課稅ヲナスモ亦一方法ナリ。猶  
單層生産資材並ニ生活必需品以外ニ關スル物品稅及ビ遊興飲食  
稅等ニ就テハ特ニ高率ヲ課スルト共ニ其ノ租稅遠脫ノ防止ヲ強  
化セザルベカラズ。又稅外收入ノ増加ヲ圖ルハ勿論、特殊ノ物  
資ニ關シテハ特ニ禁止的高價格ヲ以テ統制スルモ亦可ナリ。

ホ、國民貯蓄ノ増強

昭和二十年度ノ國民貯蓄目標額ハ六百億圓ト決定セルガ、之  
ハ國民生活ノ強度ノ消費節約緊縮ヲ前提トスルモノニシテ、從

テ從來ノ如キ成行ニ依存スルヲ以テ足ラズ、新構想ニ基ク果斷  
ヲ要請セザルヲ得ザルナリ。即チ租稅額ヤ定額ノ所得額等ヲ對  
象トシテ二重三重ニ貯蓄ヲ強制スルガ如キハ彈力性ナキ國民ノ  
一部ニ對シテ過當ニシテ不公正ナル負擔ヲ強フルモノニシテ、一  
般國民ニ公平ナル生活費ノ累積トインフレノ抑制トヲ期セシム  
ル所以ニ非ルナリ。戰時利得乃至時局便乘ニヨリ過大ナル收入  
アルモノニ對シテハ之ニ相當スル貯蓄ヲ強制セシム可ク、國民  
ノ職業、所得等ノ種類及ビ程度ニ基キ相當大幅ノ責任額ヲ基準  
トシテ達成セシムル方法ヲ講ズベキナリ。

## 一、空襲對策

敵空襲激化ノ今日、之ガ防衛ニ善處スルハインフレ防止ノ觀點  
ヨリスルモ亦益々肝要ヲ加ヘ來レリ。蓋シ空襲被害ノ影響ハ輕視  
シ難キモノアリ、生産ノ停頓減退、物資交流ノ不圓滑、資材需要  
ノ増嵩、勞力ノ離散並ニ生産率ノ低下ヲ來タシ、資金面ニ於テハ復

蓄資金ノ増大、浮動資金ノ増加ヲ來タシ、斯クシテ生産ト資金トノ兩面ヨリ惹イテ闇行爲ヲ利戟シ、インフレ激化スルノ誘因タルコト誠ニ大ナルモノアルヲ以テナリ。政府ハ速カニ軍需重要産業ノ地下工場化ト之ニ伴フ人的物的資源ノ統制アル疎開ヲ斷行スルニ遺憾ナキヲ期セザルベカラズ。而シテ既ニ被害アリタル工場ノ復舊移轉等ニ就テハ一定ノ計畫ノ下ニ之ヲ實施スベキハ言ヲ俟タザル所ナリ。

### 一三、綜合的結論

インフレ防止ノ總括的施策要項ハ、要スルニ刻下緊急ノ要事タル軍需生産及ビ食糧増産ニ關シ企業者ノ創設ト企業意欲ヲ振起スルト共ニ資金ノ適正ナル運営ヲ期シ、勞務ノ供給及ビ配置ニ就キ量ノミナラズ能力經驗等ノ質ヲモ考慮シ、其ノ能率ト勞働意欲ヲ最高限度ニ發揮セシメ、以テ闇行爲ノ發展ノ餘地ヲナカラシムベク、而シテ國家財政並ニ金融資金ノ慎重適正化ヲ圖ルト共ニ、重

點的ナル公定價格ノ改定ヲ斷行シ、是等ノ施策ト相俟ツテ當面ノ  
憂慮スベキ感性的インフレノ激化ヲ抑制スルニ在リ。之ガ爲ニハ國  
營事業ノ範圍ハ益々擴大スベキモ、生産效果ノ達成ニハ國有民營  
ヲ冀望セザルヲ得ズ。殊ニ現在ノ如キ生産組織ノ混沌狀態ヲ打開  
センガ爲ニハ嚴ニ經濟原則ニ基ク計畫性ノ上ニ一切ノ運営ヲ推進  
セシムベク、結局之ガ貫徹ニハ政治力ノ格段ナル増強ト共ニ全般  
ニ涉ツテ強力ナル國民ノ士氣昂揚ト道義肅正ヲ切ニ要請セザルヲ  
得ズ。茲ニ民間ヨリ盛り上ル一大國民運動ノ展開ヲ期待スルモノ  
ナリ。

( 終 )

極秘

改訂号



我方戦時体制ノ脆弱性

(昭和二十年六月七日 田中私記)

## 我方戰時體制ノ脆弱性

支那事變勃發以來戰時體制ノ實質的強化ヲ圖ル上ニ相當ノ餘裕期間ト體驗トヲ經テ大東亞戰爭ニ突入セル次第ナルニ拘ラズ、此ノ容易ナラザル戰局ニ面シテ我方戰時體制ハ幾多ノ脆弱性ヲ包藏シ戰力ノ發揮充分ナル能ハズ、甚ダ以テ遺憾トスル所ナリ。而シテ其ノ因テ來ル所ヲ考フルニ概ネ左ノ如キモノアリ。

一、平時體制ヨリ戰時體制ニ移行スルニ當リ種々機構ノ改正ヲ要スルモノアリタルハ首肯シ得ベキモ、一般國民ノ間ニハ其ノ改正ヲ要スルノ趣旨徹底ヲ缺クノミナラズ、往々ニシテ行過ギノ改正アリ又頻々改正ノ反覆アリ、所謂機構イジリニ墮セルモノアル一方、機構ノ連營ニ意ヲ用フル所ヲ缺キタル結果所期ノ目的ニ副ハザルニ至レリ。

二、矢鱈ニ人ノ配置替ヲ行ヒ然モ之ヲ經驗ニ乏シク國策的の見解ニ通ゼザル下部官吏ノ起加減ニ委シタル結果、各人ノ智識、經驗、技能等ヲ沒却シタル配置替トナリ、智力モ勞力モ能率低下、恰モ戰力ノ增強ヲ自ラ滅殺セルノ實情ヲ見ルニ至レリ。



企業ノ生産配置替ニツキテモ亦然リ。漫然簡單ニ配置替ヲ行ヒテ企業ノ特徴ヲ殺シ生産能率ノ低減ヲ招來セルモノアリ。

三、戰時行政、經濟共ニ其ノ動キ方ハ至ツテ緩慢ナリ。殊ニ戰時ノ要請スル統制政策ハ徒ラニ形式ニ流レテ實質之ニ伴ハザルモノ多ク、又統制政策ニ伴レテ官廳ノ監督事務ハ著シク増大セルニ其ノ事務處理方ハ舊態依然トシテ敏捷ヲ加ヘズ。サリトテ事務簡素化ニ依テ假令官廳事務數量ノ節減ハアリトスルモ、處理ノ緩慢ナルガ爲メ時間的ニハ簡素化ノ實果現ハレズ。最近頻リニ行ハレツ、アル中央事務ノ地方委讓ノ如キモ、畢竟事務數量ノ減少ヲ意味セズ、事務ノ地方的處理ニヨリテ敏捷ニ運バレンコトヲ目途トスル次第ナレバ此ノ點大ニ留意ヲ要ス。

四、民間ニモ戰時意識ニ透徹セズ、舊体制ヲ脱セザル部分アリ是等ハ腦裡ニ時局ノ重大ナル真相ヲ反映スルコトナク、營利採算、同業競争資材退藏、政府迎合依存等概シテ安易主義ニ流レ、延イテ一般國民ノ意氣ヲシテ低調裡ニ彷徨セシム。

五、國家戰力增強体制ノ確立上綜合的企畫性ニ乏シク、相互ニチグハグナルノミナラズ企畫ノ繼續性少クシテ近視眼的ニ變改頻々、然モ企畫遂行ニ當ツテモ諸般ノ足並揃ハズ推進ノ狀態區々不均衡タルヲ免レズ。

六、陸、海軍各官廳、民間同業者相互間ノ非協調ハ人的物的爭奪ト交流ノ停頓、間取引ノ橫行、生産費ノ暴騰ヲ助長シ戰時經濟ノ水膨レト摩擦トヲ醸成セリ。

七、戰時官僚行政アリテ戰時政治ナシ。戰時下ノ政治ハ何等ノ複雜性ヲ要セズ。軍官民一体ノ總力結集ニアリ。各職場ヲ通シテノ能力ノ完全發揮ニアリ。否平時能力ニ倍スルノ發揮ナカル可ラズ。然ルニ各人ハ未ダ其ノ能力ヲ充分ニ發揚スルコトナク、漸ク其ノ何割カヲ發揚シタルノミニシテ萎縮セントス。蓋シ士氣昂揚ハ戰時政治ノ眼目タルコト闕却セラレタリ。此ノ超非常事態ニ座シナガラ何等ノ國民運動ヲ見ザルコト今日ヨリ甚シキハナシ。

八、國民道義ノ頹廢ハ眞ニ憂フベシ。戰意低調、信義喪失、惡德橫行、

私的利慾ヲ追フニ急ニシテ敗戦思想ニ墮セントスルハ嚴ニ警戒ヲ要スル所ナリ。強力ナル政治ヲ要ス。簡單化セル形態ニヨリ急速ニ促進スベキ強力ナル政治ヲ缺如セリ。体裁、形式、外見等ニ囚ハルベキ此ノ時ニアラズ。花火式仕草ヲ排ス。

九 敵ヲ甘ク見過ギタリ。素ヨリ敵ハ精神力ヨリモ物量ニ於テ有力ナルコトハ周知ノ通りナルガ、其ノ物量ノ程度ニツキ之ヲ過小ニ測リ輕視シ過ギタル所ナシトセズ。尙又敵ノ人的物的補給力ニツキテモ同様輕視シタル所果シテナシトセンヤ。

敵ヲ甘ク見過ギタル他ノ點ハ敵ノ性格ニ關スルコトナリ。我方國人ハ敵ノ人柄ヲ品良キモノナリト獨斷シ彼等ノ鬼畜性ニツキテノ認識ヲ缺如セル結果、マサカ敵ハ斯ク迄ノ非道ハ敢テセザルベシト我方方方獨リ決メセル間ニ敵ハソレ以上ノ慘酷性ヲ以テ我ニ迫ル。蓋シ敵ハ我方民族ヲ以テ人類扱ヒスルモノト豫期スルハ抑モ亦愚ト謂フベキナリ。

十 我ニ軍略ノ優越セルアリヤ否ヤハ之ヲ識ラズ。惟フニ現代ノ大戰ニ

國之強弱を以てシテ。尚又強人由強國弱國ニヤキテ同  
ロトハ國威ハ振レヤム。其ノ時量ノ時量ニヤキテ強小ニ關シ  
此類ニ甘々其強弱ニシ。其日ヨリ強ハ弱國ト成レヨリ  
強國ハ弱國ト成レテス。其日ヨリ強ハ弱國ト成レヨリ  
強國ハ弱國ト成レテス。其日ヨリ強ハ弱國ト成レヨリ

ハ軍略ノ確然タル樹立ト之ガ強力ナル推進トヲ要スルヤ論ナシ。而  
シテ軍略ハ其ノ構成要素タル諸條件ガ均衡ヲ得タル綜合力ヲ發揮ス  
ルニ依テ確立セラル。然ラバ構成要素トハ何ゾ。

第一、戰略（直接ノ戰闘行爲ニ關スル機略ヲ云）

第二、戰時的政治力ノ發揮

イ、行政機能ノ機宜的効率化

ロ、司法機能ノ嚴正ナル發揮

ハ、國民士氣ノ昂揚

第三、戦力増強

イ、統制機能ノ適正運營

ロ、生産増強ノ重點主義

ハ、勞力配置ノ高能率化

ニ、消費規正ト公正配給

ホ、運輸通信ノ保全

ヘ、財政金融運用ノ妥當性

第四、對外措置

第五、宣傳

即チ之ナリ。要ハ是等ノ要素ニ依テ構成セラル、軍略ノ優越ガ大戦ノ必勝ヲ保障スルモノニ外ナラザルナリ。



## 通貨膨脹ト最近ノ地方金融

(昭和二十年六月二十日田中私記)

通貨ノ膨脹ハ最近異常ナルモノガアル、昨年末百七十七億圓デアツタ日銀券ハ本年五月末ニハ二百三十二億圓トナツタ。前年同期ニ比ベテ二倍ニ増加シテ居ルガ、其ノ増勢ハ逐月強マツテ來テ居ル。此ノ増加セル通貨ノ中ニハ一部ハ退藏ノ増加即チ潜在購買力ノ増加トナツテ居ル部分モアルガ、流通面ニ現ハレル通貨ノ著増シツ、アルコトハ争ハレナイ。物資ノ生産ニ制約アル一方軍需消費ノ増大セル此ノ際、斯カル通貨膨脹ガインフレ進行ヲ加速度ナラシムルコトハ申ス迄モナク、之ヲ目シテ已ラ得ズトシテ成行ニ任セントスルノ聲ヲナスガ如キハ抑モ亦不可解至極デアアル。

通貨發行高ノ増加ハ申ス迄モナク一面資金撤布ノ増大ト他面之ガ回收ノ遲鈍ニ基因スル。從來ノ行キ方ヲ通觀スルニ、生産ノ増強ハ勿論、空襲罹災者救護等ノ角度カラ資金放出面ニハ何時モ強過ギル位ニ拍車ガカケラレルガ、資金回收面ニハ關係當局及金融界ハ兎モ角トシテ一般ノ理

日聯衆へ本半正民末ニハ二百三十二億圓イセツル。前半同限ニ出スルニ  
解ト力ノ入レ方ハ必ズシモ充分デハナカツタトモ云ヘル。況ンヤ其ノ間  
金融ヲ輕視スル傾向モアツテ苟モ金融ガ經濟活力ノ素デアリ之ヲ下手ス  
レバ戰力増強ニモ祟リガ來ルト云フコトハ、愈々インフレ症狀ガ進ンデ  
來テサヘ閉却サレ勝チデアル。

資金ノ撤布ハ最近頓ニ増大シテ來タ。之ハ

イ、疎開資金ノ需要、疎開補償金ノ支拂

ロ、空襲罹災者ヘノ保險金ノ支拂

ハ、罹災工場復興資金ノ需要

ニ、罹災見舞金ノ放出（之ハ必ズシモ巨額デハナイガ）

ホ、疎開者、罹災者ノ預貯金ノ引出

等ノ事情ニ基因スルモノデ矢鱈ニ制約シ難イ關係モアルガ、此ノ際注意  
ヲ要スルコトハ諸會社ノ多額ノ資金需要ガ眞ニ生産ノ増加ニ對應セズ、  
救濟資金トカ住宅手當トカ所謂雜費的使途ニ向クルモノノ増大スル傾向  
ガアルコトデアル。斯クテ物ト金トノ跛行狀態ガ更ニ深刻化シテ行ク。  
最近各自ノ現金手持高ハ増加シテ來テ居ル。頻々タル空襲ニ備ヘテ一









關ニ預入サレル部分が増加スベキ運命ニアルト見ラレルガ、然シ成行ニ  
放置シテ自然還元ニ俟ツテ居テハ相當長イ期間ヲ要スル。ソレデ此處力  
ヲ入レル必要ガアルノデアアル。

尤モ今日デモ既ニ地方銀行ノ預金ハ急増ヲ見倍加シ來ツテ居ル有様デ、  
現ニ一人デ數十萬圓乃至百數十萬圓ノ預金ヲシタ者ガアルト喜ンデ居ル  
地方銀行モアル。然シナガラ地方銀行ノ預金増加量ハ一方都市ニ於テノ  
地方轉出關係ヘノ資金撤布高乃至ハ地方ヘ浸潤シ來ツタ金ノ分量ニ對比  
スレバ尙未ダ遙カニ及バナインデアアル。

然ルニ地方銀行ノ間ニハ早クモ小額ノ預金ニ對スル從來ノ様ナ關心ガ  
ナクナリ、大口テナケレバ相手ニセヌト云ツタ風ガ發生シタト云ハレテ  
居ル。之ニ就テ地方銀行當業者ハ先ヅ行員ノ手不足ト能率ノ低下ヲ云フ。  
即チ銀行員ハ矢鱈ニ徵用サレテ要員トシテノ取扱方ガ輕イ。女子行員デ  
ハ能率低調テ執務上ノ責任觀念ガ弱イ。又經理統制令下銀行員ノ待遇ハ  
軍需會社等ニ比ベテ遙カニ惡イ。自然働キ振リガ活潑デナイ。更ニ又業  
務用紙ノ不足セルコトモ著シク活動力ヲ阻害スルトモ云フ。要スルニ

是等ノ事情ニ就テハ適正ニ檢討シテ眞ニ理由ノアルモノハ是正シテ然ルベシト思ハレルガ、根本ニ於テ地方銀行ニ於ケル資金吸收ノ積極的強化ガ要請セラレルノデアアル。

次ニ最近ノ新現象トシテ工場金融ノ地方移轉ガアル。即チ疎開工場が多クナリ其ノ金繰リガ都市カラ地方ニ移ル。地方銀行カラノ融通ヲ求メルノデアアル。地方流入資金ノ吸收ガ未ダ充分デナイ折柄デアリ、地方金融ハ現在著シク餘裕ガアル譯デハナイ。從來地方金融機關ハ増加預金ノ大部分ヲ國債消化ニ資シ残りヲ都市ノ主トシテ短資市場ニ放出シテ居タモノデアアルガ、地方自体デ工場金融ニ應ゼネバナラナクナツタコトハ地方金融ノ繁忙ヲ意味スルコトニモナツタ。此ノ情勢ニ對處スル上カラシテモ大ニ地方浮動資金ノ吸收ニ馬力ヲカケルコトノ重要性ガアルノデアアル。

資金吸收政策ニ就テハ既ニ幾多ノ構想ガ持チ出サレ又實行ニモ移サレテ來タコトデ今更一々贅ヲ俟タナイ。唯地方ニハ又地方事情ヲ夫々勘案シテ施策上適當ナ重點ヲ捉ヘルコトガ必要デアアル。現金使用ノ制約ヲ期

大正公... 國書... ニ... 資... 爲... 巨費ヲ拂ヘル新興所  
得層等ニ對シ一色々ノ研究課題ガアルガ、何ト云ツテモ此際現金ノ出方  
ガ多イ狀勢デアルカラ各般ニ亘ツテ支拂ヲ振替トカ帳簿拂ニシテ極力現  
金拂ヲ規正スルコトニ最モ工夫ガ必要ナリトセラレル。普通預金ノ支拂  
ヲ全國共通ニ拂ツテヤルト云フ考ヘ方ノ如キモ之ニ依リ全額現金拂戻ヲ  
制約スルノ結果ヲ招來スルコトニナレバ頗ル意義多イ次第デアル。  
最後ニ二ツノ問題ガ最近擡頭シテ居ルコトヲ感ズル。  
其一ハ都市銀行ノ今後ノ立場デアアル。敵空襲下ニ其ノ預金ハ引出サレ  
ル。即チ中央ノ勸定ヲ地方支店勸定ニ移サレルカ又ハ地方銀行ニ移サレ  
ル。取引先ガ減少スル、預金吸收範圍ガ縮小サレル。然モ其ノ預金吸收  
上ノ熱ト努力モ退嬰的トナツタ。而シテ資金ヲ放出スベキ要請ハ依然大  
デアアル。ソレデ都市銀行トシテハ地方ニ其ノ活動範圍ヲ擴張センコトヲ

金融ニ賦五スルロイニ據テ工夫ニ要スル  
次ニ下州縣マテハ此マ谷銀ニ且マ支那ニ遊蕩イカ  
時價等ニ違ヒ一由マ、府院縣國マテハ此、同一  
考フル傾向トナルノミナラズ、都市銀行自体ガ空爆下ニ曝ラサレテ分散  
疎開セントスルノ氣運モアル。之ニ對シ地方銀行ハ都市銀行ノ割込ヲ排  
スル。漸ク此ノ機會ニ伸ビントスル地方銀行ノ地盤ヲ荒ラサレテハ困ル  
ト云フ。此處ニ兩者ノ立場ガ問題トナルノデアアル。

其ノ二ハ總監制度ト金融系統トノ關係デアアル。凡ソ金融政策ハ他ノ企  
業ト異ツテ全國ニ亘ル系統的運営ニ依テ意義ヲ加ヘ、圓滿ナル綜合的經  
濟活動ヲ保全スル上ニ於テ意義深イモノガアルノデアアル。

總監制度下ノ個々ノ金融措置ハ其ノ遣リ方如何ニ依ラバ局部的ニ大キ  
ナ軒輕ガ發生シ不必要ニ矛盾ト摩擦ヲ生ズルコトモアリ得ルデアロウ。  
都市對地方金融ノ關係ニ就テモ總監行政ノ如何ハ今後慎重ニ考慮セラ  
ルベキ問題タルヲ失ハナイ。

極秘

戦時体制ノ検討観點  
（昭和二十年七月二日 田中私記）

戦時体制ノ検討観點

（昭和二十年七月二日 田中私記）



## 戰時體制ノ檢討觀點

支那事變勃發以來戰時體制ノ實質的強化ヲ圖ル上ニ相當ノ餘裕期間ト體驗トヲ經テ大東亞戰爭ニ突入セル次第ナリトハ云ヘ、刻下容易ナラザル戰局ニ直面シテ其ノ戰時體制ガ果シテ戰力ノ發揮ニ充分ナリヤハ常ニ檢討サルベキ所ニシテ、若シ夫レ其ノ間脆弱性ヲ包藏スルモノアリトセバ火急ニ之カ是正補強ヲ圖ルベキコト言フ俟タズ。

然ラバ如何ナル角度ヨリ之ヲ檢討スベキカト云フニ、素ヨリ簡單ニアラザレドモ交戰國ノ通弊ニ鑑ミ今日ノ段階ヨリ見テ左ノ如キ數點ハ極メテ重要ナル觀點ナリト思考サル。

一、平時體制ヨリ戰時體制ニ移行スルニ當リテハ種々機構ノ改正ヲ要スルモノアルコト勿論ノコトナガラ、一般國民ノ間ニ其ノ改正ヲ要スルノ趣旨徹底ヲ缺クコトナカリシヤ否ヤ、加之其ノ間往々行過ギノ改正又頻々改正ノ反覆行ハレテ、所謂機構イジリニ墮スルコトナカリシヤ、更ニ又機構ノ運営ニ意ヲ用フル所ヲ缺ギタル結果所期ノ目

然モハ、戰時ニ至レルコトナカリシヤ否ヤ。

三、戰時体制ヲ整ヘントスルニ際シ往々ニシテ矢鱈ニ人ノ配置替ヲ行ヒ然モ之ヲ經驗ニ乏シク國策的見解ニ通ゼザル下部官吏ノ加減ニ委スル結果、各人ノ智識、經驗、技能等ヲ没却スル配置替トナリ、智力モ勞力モ能率低下、恰モ戰力ノ增強ヲ自ラ減殺スルノ實情ヲ呈スルニ至ルコト由來交戰國ニアリガチノ弊竇ナリ。我々ハ果シテ斯ノ如キ傾向ヲ示現スルコトナカリシヤ如何。

企業ノ生産配置替ニツキテモ亦然リ。漫然簡單ニ配置替ヲ行ヘバ企業ノ特徴ヲ殺シ生産能率ノ低減ヲ招來スルコトアルヤ必セリ。

三、戰時下ニ於テハ行政、經濟共ニ其ノ動キ方ハ至ツテ敏捷ヲ要ス、苟モ緩慢ヲ許サズ。戰時ノ要請スル統制政策ガ徒ラニ形式ニ流レテ實質之ニ伴ハザルモノナキヤ。又統制政策ニ伴レテ官廳ノ監督事務ハ著シク増大セルニ拘ラズ其ノ事務處理方ハ舊態依然トシテ敏捷ヲ加ヘザルコトナキヤ。事務簡素化ニ依テ假令官廳事務數量ノ節減ハアリトスルモ、處理緩慢ナルニ於テハ、時間的ニハ簡素化ノ實果ヲ舉

クル能ハズ。中央事務ヲ其ノ儘地方へ委譲スルコトハ事務數量ノ減少ヲ意味セザルガ、畢竟事務ノ地方的處理ニヨリテ敏速ニ運バレンコトハ蓋シ其ノ一ナルベシ、然ラバ此ノ點大ニ留意セラレツ、アリヤ否ヤ。

四 民間ハ果シテ戰時意識ニ透徹セルヤ。舊体制ヲ脱セザル部分ナキヤ。腦裡ニ時局ノ重大ナル真相ヲ反映スルコトナク、營利採算、同業競争、資材退藏、政府迎合依存等安易主義ニ流レ、延イテ一般國民ノ意氣ヲシテ低調裡ニ彷徨セシムルコトナキヤ否ヤ。

五 由來國家戦力増強体制ノ確立ニハ綜合的企畫性アルヲ以テ要諦トス、相互ニチグハグナル可ラズ、又企畫ノ繼續性少クシテ近視眼的ニ變改頻々タルハ抑モ亦探ラザル所ナリ。又企畫遂行ニ當リ諸般ノ足並揃ハズ推進ノ狀態區々不均衡ニ陥ルハ戦力急増ニ際シテノ通弊ナリ。果シテ斯ノ如キ缺陷ナキヤ否ヤ。

六 陸、海軍各官廳、民間同業者相互間ノ絶對的協調ハ交戦國ノ要義トスル所ナルハ勿論ナリ。若シ然ラザルニ於テハ人的物的の爭奪ト交流



ヲ要ス。簡單化セル形態ニヨリ急速ニ促進スベキ強力ナル政治ヲ要スベシ。体裁、形式、外見等ニ囚ハルベキ此ノ時ニアラズ。花火式仕草ヲ排ス。

九 敵ヲ甘ク見過ギル可ラズ。素ヨリ敵ハ精神力ヨリモ物量ニ於テ有力ナルコトハ周知ノ通りナルガ、其ノ物量ノ程度ニツキ之ヲ過小ニ測リ輕視シ過ギル様自戒ヲ要ス。尙又敵ノ人的物的補給力ニツキテモ同様輕視ス可ラザルモノアリ。測定ノ周到如何ハ常ニ檢討サルベキ問題ナリ。

敵ヲ甘ク見過ギル他ノ點ハ敵ノ性格ニ關スルコトナリ。敵ノ人柄ヲ品良キモノナリト獨斷シ彼等ノ鬼畜性ニツキテノ認識ヲ缺如スルトキハ、マサカ敵ハ斯ク迄ノ非道ハ敢テセザルベシト我方方獨リ決メセル間ニ敵ハソレ以上ノ慘酷性ヲ以テ我ニ迫ル。之ニ關スル一般ノ認識果シテ如何。蓋シ敵ハ我方民族ヲ以テ人類扱ヒスルモノト豫期スルハ抑モ亦愚ト謂フベキナリ。



第四、對外措置

第五、宣傳

即チ之ナリ。要ハ是等ノ要素ニ依テ構成セラル、軍略ノ優越ガ大戦ノ必勝ヲ保障スルモノニ外ナラザルナリ。

朝鮮、宣慰  
第四、徳長計書



總裁 田中 鐵三郎口述

大陸自給自戰態勢の確立 二〇、五、一八

調査部長



一、必勝の信念を昂揚すること

必勝の信念を昂揚することは殊に大陸に於て強く重點を置く必要がある、之が爲には軍官民の一体化を強力に推進し特に官の民に對する聯繫態勢は舊套を一擲して其の緊密化を圖る要がある

二、防備の強化

イ、半島内の治安保全、思想取締並に流言の警戒、

半島内には極少數の内地人が分散的でなく集約的に居住（都市集中の傾向がある）してゐるが、一方では極めて多數の半島人が普遍的に散在して居り、而もその大部分が無知低級で附和雷同性に強い、従つて斯かる形勢に對處して半島内の治安維持に付ては特段の措置



聯軍の計画を最速せよ

一、空軍の計画を最速せよ  
二、空軍の計画を最速せよ  
三、空軍の計画を最速せよ

を講ずる必要がある、

ロ、大陸との連繫強化。半島と大陸、特に滿洲北支との連繫を密にし有  
無相通の建前を以て生産、交易、勞務等の運営を考慮するの要があ  
る、一茲に謂ふ連繫とは他地域への依存性を強調するものではない、  
ハ、人的配置の安定化

半島に於ては殊に下級階層に徴用忌避の爲の動搖が見られ之が治安  
に及ぼす影響甚からざるものあるに付速に人的配置の適正化を圖り  
之を企画的に安定せしむる要がある

三、武器其他軍需品の補充及生産の確保

内地の生産設備殊に遊休設備の活用を圖り之を速かに半島へ移駐し超  
重點的に必需軍用品の生産を確保し、更に大陸他地域への補充を圖ること、  
右軍需品の生産は普遍的に行はず嚴選的重點的に考査するを要する

四、食糧の増産

半島は由來内地に相當量の食糧移出を行つて來たが一面滿洲への依存

も勢からさるものがあり食糧事情は決して樂觀を許さない、況んや今後に於ける鑛工業部門の勞力増加見込から食糧生産部門は壓迫される傾向に在る、従つて農業生産力の増強は最も緊急を要する所であり之が爲農法の改善、勞力の確保及勞務配置の適正化等生産能率増進に創意工夫を凝す必要がある

#### 五、物價騰貴の抑制

戦争經濟の進展と共に物價は今や若しく騰貴して生産費の増大を來してゐる現狀であるが今後自給自給戰態勢の強化に伴ひ物價は一層騰貴の傾向を濃化するものと見られ之が生産並に國民生活に與へる影響脅威は不尠、倍々物價騰貴抑制の必要が加はるのである、故に今日迄の物價政策の失敗を根本的に是正すると共に、他面物資そのものの流動性を促進するの要がある、一物資面の施策は從來比較的意を用ひられることと勢い根があつた。

#### 六、金

正、四野通貨の供給  
工夫を要すべしとある  
半島内には於ける紙幣の製造  
半島内に於ける紙幣の製造に付ては既に其の措置が講ぜられつゝあ  
る  
紙幣の供給が困難となつた場合の經濟活動に及ぼす弊害は支那に於  
て既に實例の有る所であり多言を要しない  
發行通貨の種類に付ては原則として極力大額券を避くるの方針を支  
持すべきである  
ロ、インフレ防止  
インフレの過程が既に進展して來た今日之に對する防止措置は全面  
的綜合的施策の實行を必要とする情勢であるが今後の自給自戰態勢  
を整備するに當つて特に次の三點に考慮を拂ふ必要がある  
(1) 通貨膨脹抑止策  
(2) 通貨交流抑止策  
(3) 大陸外域の影響防止策

八、大陸各域間の資金決済方法の準備

自給自戦態勢の確立に伴ひ今後大陸各域間の連繫は益々緊密を加ふべきであり之に對應して大陸各域間の資金決済方法に付ては豫め其の措置を決定し置く必要がある、現状に於ては動もすれば物資の交流圓滑を缺ぎ通貨の<sup>錯綜する</sup>み虞れあるに付之が抑壓に付ては時に警戒を要する

七、強力なる政治力による施策

戦局緊迫せる今日の情勢に坐して總力を結集戦力増強に邁進すべきは論を俟たない所であるが要はその實效を擧げるに在り、單なる理論や機構いぢりに時日を遷延すべき秋でない、要は斷乎たる實行政治に在る、又強力政治の遂行に當つては從來兎角弊害視された各部門のせ<sup>く</sup>し<sup>よ</sup>なり<sup>ず</sup>む<sup>を</sup>打破する必要がある、各地域の自給自戦態勢の整備も斯かるせくと主義の抑止を考慮に置いて推進する要がある

今日の討巻の坐し丁時氏を録業類氏曾疏の難筆々々  
小、鍾氏多る前代のよる感業



他見之候も多し其意味  
（註）

偶 感 摘 録

半宵風雨俄かに強くして木石前庭に鳴る、忽ち燈火消えて黙想數刻、  
腦底感湧くに及んで窓外の騒音自ら耳朶に遠し。即ち數篇を草して  
回顧に資す。

（昭和二十年八月三日嵐の夜、田中私記）

半宵風雨對衣の殿ノ了了木石前旗の御る、感と盡火節え了想懸環塚ノ  
附 題 辭 終

偶感摘録

- 第一、戦時体制の検討観點
- 第二、綜合戦力と軍略の構成
- 第三、インフレ防止と租稅政策の重大性
- 第四、半島片影觀

第一、戰時体制の検討觀點

支那事變勃發以來戰時体制の實質的強化を圖る上には相當の餘裕期間と體驗とを経て大東亞戰爭に突入せる次第ではあるが、刻下容易ならざる戰局に直面して其の戰時体制が果して戦力の發揮に充分なりやは常に検討さるべき所である。若し夫れ其の間脆弱性を包藏するものありとせば火急に之が是正補強を圖るべきことを俟たない。時局は今や最も緊迫した段階に突入した、此の際自ら後ろ姿を鏡にうつして見て更に有効適切なる前進を敏速にすることが急務である。

然らば如何なる角度から之を検討すべきかと云ふに、素より簡單ではないが、交戦國の通弊に鑑み今日の段階から見て左の如き數點は極めて重要なる觀點であると思はれる。

一 平時体制から戰時体制に移行するに當つては種々機構の改正を要するものあることは勿論のことながら、一般國民の間に果して其の改正を要するの趣旨が徹底を缺くことなかりしや否や、加之其の間往々行

過ぎた改正や頻々改正の反覆が行はれて、所謂機構いじりに墮すること  
とがなかつたかどうか、更に又機構の運営に意を用ふる所を缺いだ結  
果として所期の目的に副はざるに至つたことがなかつたかどうか。

二 戦時体制を整へんとするに際し往々にして矢鱈に人の配置替を行ひ、  
然も之を経験に乏しく國策的見解に通ぜざる下部官吏の比加減に委す  
る結果、各人の智識、経験、技能等を没却する様を配置替となり、智  
力も勞力も能率低下、恰も戦力の増強を自ら減殺するの實情を呈する  
に至ることあるは由來交戦國にありがちな弊窳である。我々は果して  
斯の如き傾向を示現することなかりしや如何。

企業の生産配置替についても亦然りて、漫然簡単に配置替を行へば企  
業の特徴を殺し生産能率の低減を招來することあるは必然である。

三 戦時下に於ては行政、經濟共に其の動き方は至つて敏速を要する、苟  
も緩慢を許さない。戦時の要請する統制政策が徒らに形式に流れて實  
質が之に伴はざるものなきや。又統制政策に伴れて官廳の監督事務は



著しく増大せるに拘らず其の事務處理方は舊態依然として敏捷を加へざることをなきや。事務簡素化に依て假令官廳事務數量の節減はありとするも、處理緩慢なるに於ては、時間的には簡素化の實果を擧ぐることとは出来ない。又中央事務を其の儘地方へ委譲することは事務數量の減少は意味ないが、畢竟事務の地方的處理によつて敏速に取り運ばんと云ふことが狙ひどころであらう。して見れば果して此の點が大に留意せられつつありや否や。

四 民間は充分戰時意識に透徹して居るか。舊体制を脱せざる部分はないか。腦裡に時局の重大なる真相を反映することなく、營利採算、同業競争、資材退藏、政府迎合依存等安易主義に流れ、延いて一般國民の意氣をして低調裡に彷徨せしむることなきや否や。

五 由來國家戰力増強体制の確立には綜合的企畫性あるを以て要諦とする、相互にちぐはぐなる可らず、又企畫の繼續性が少くして近視眼的に變改頻々たるは抑も亦採らざる所である。又企畫遂行に當り諸般の足並

が揃はず推進の状態又區々不均衡に陥るのは兎角戦力急増に際しての通弊である。果して斯の如き缺陷はなかつたかどうか。

六陸、海軍、各官廳、民間同業者相互間の絶對的協調は交戦國の要義とする所なるは勿論である。若し然らざるに於ては人的物的爭奪と交流の停頓、闇取引の横行、生産費の暴騰を助長し、戦時經濟の水膨れと摩擦とを醸成するに至るのである。之に對する自戒如何。

七戦時行政はありとしても、戦時政治の要又重大である。素より戦時下の政治は徒らに複雑性を加ふ可きでない。要は軍官民一体の總力結集を目途とするにある。各職場を通しての能力の完全發揮にある。否平時能力に倍するの發揮がなくてはならぬ。然らば各人は既に其の能力を充分に發揚しつつありや否やが問題となる、況んや漸く其の何割かを發揚したるのみにして萎縮することなきやは警戒を要する。蓋し士氣昂揚と云ふことが戦時政治の眼目を爲すと云ふことを閑却することはないべきだが、此の超非常事態に座し國民精神の動きが低調裡に

彷徨するが如きことなき様、這般の實情は終始検討せらる可き所であらう。

へ交戦國の通弊たる國民道義の頽廢は眞に憂ふべきである。之を放置すれば戰意低調、信義喪失、惡徳横行、私的利慾を追ふに急にして敗戦思想に墮するに至る、嚴に警戒を要する所なり。社會の實相を検討把握し若し如上の弊害ありとせば斷乎救治を急務とする。強力なる政治を要する。簡單化せる形態により急速に促進すべき強力なる政治を要するのである。体裁、形式、外見等に囚はるべき時でない。時局は花火式仕草を排するのである。

六 敵を甘く見過ぎてはならぬ。素より敵は精神力よりも物量に於て有力なることは周知の通りであるが、其の物量の程度につき之を過小に測り輕視し過ぎない様自戒を要する。尙又敵の人的物的補給力につきても同様輕視す可らざるものある。殊に敵米國は更に時間短縮に就て由來特徴を有する、平時から其の生産に就て如何にして同じ分量を更に

短時間に仕上げるかと云ふ工夫を怠らない。敵の所謂時間に關する通  
有性を閑却してはならない。要するに測定の周到如何は常に檢討さる  
べき問題である。

敵を甘く見過ぎる他の點は敵の性格に關することである。敵の人柄を  
品良きものなりと獨斷し彼等の鬼畜性につきての認識を缺如するとき  
は、まさか敵は斯く迄の非道は敢てせざるべしと我が方が獨り決めせ  
る間に敵はそれ以上の慘酷性を以て我に迫る。殊に米國に就て然りて  
ある。之に關する一般の認識果して如何。蓋し敵は我が民族を以て人  
類扱ひするものと豫期するは抑も亦愚と謂ふべきである。

## 第二、綜合戦力と軍略の構成

必勝の機は戦力の綜合的結集に依て確實に把握される。此の戦力の綜合的結集に依て所謂軍略の完璧が期せられるのである。即ち現代の大戦には軍略の確然たる樹立と之が強力なる推進とを要するのである。而して軍略は其の構成要素たる諸條件が均衡を得たる綜合力を發揮するに依て確立せられる。然らば構成要素とは何であるか。

第一、戰略（直接の戰鬪行爲に關する機略を云）

第二、戰時的政治力の發揮

イ、行政機能の機宜的效率化

ロ、司法機能の嚴正なる發揮

ハ、國民士氣の昂揚

第三、戦力増強

イ、統制機能の適正運営

ロ、生産増強の重點主義



るのみである。云ふことは兎角として眞に個人主義の舊套を脱却し盡  
忠報國の至誠に徹することは官公民共に自覺して居る筈である。若し啓  
蒙度し難きあらず宜しく更に強力なる政治に俟つべきである。

### 第三、インフレ防止と租税政策の重大性

戦時經濟の病弱化從て戦力衰退を招來すへきインフレ現象の防止乃至緩和は交戦國の共通的に腐心する所であるが、本邦に於ても漸く「インフレ」濃化の傾向が急進せんとするの情勢に見て、最近頃之が警戒の聲が高まりつゝある。然し此の警戒は實は既にインフレ實情の進行に遲れて居るのみならず、尙未だ官民の間に充分なる理解が出来て居ないと云ふ憾がある。

甲す迄もなく戦局の推移に伴ひ、軍需物資の消費は増大し民需物資の生産は減少する、一面戦費増嵩に因つて通貨は膨脹すると云ふ傾向は近代戦に於ては一層急激に現はれ易い、之を下手すれば通貨價值に對する不信を醸成し生産を阻害し經濟秩序を壊亂せしむる。然るに從來戦力増強を要するの急なるものある關係から不識不知インフレに對する警戒の聲が抑へられて戦時經濟に對する其の反應が弱かつた。斯くて兎角する



間にインフレの下地が全面的に蔓延して居たと云ふのが今日の状態である。

第一次歐洲大戰の際獨逸が經濟上の脆弱化を來した事情を回顧すると國民自体がインフレに對する認識が薄く寧ろ無關心であつたと云ふことが根原をなして居る。當時獨逸の物價は次第に昂騰を辿つたが、之は物資缺乏を來せしことと悪商人等の暴利に基因するものとせられ、通貨面から醸成せられつゝあつた禍因には氣をくばることが比較的少かつたのである。勿論當時獨逸は封鎖せられて居て國際的に通貨價值を秤量するには不適當であつたし、又國內的には統制經濟政策の下頗る低い法定物價と闇取引の暴利相場とが錯綜して物資の保有する妥當な價值を判定すべき感覺も乏しくなつて居たのである。此の邊の事情は今日からも他山の石としてよく味ふ必要があるのではないかと思はれる。一面に於て當時獨逸政府の採つた戰費支辨方策上にも不穩當な點もあつた。即ち當時獨逸政府は經常歳入の増加に意を用ゆることが少く赤字公債式戰費調達

即ち借金主義に依存することに専らであつた。之は戦費は後で敵が拂ふと云ふ考へ方から出發したとも見られて居るが、それは兎も角として隨時短期の大藏省證券を發行して戦費を支辨して置いて、後から長期公債を募集しては大藏省證券を償還すると云ふ仕組でやつて居るうちに、公債の應募高が次第に減退し、大藏省證券の償還をカバーしきれなくなつた。此の間帝國銀行の發行權を利用してカラクリをしたことは勿論である。此の邊大分本邦の是迄のやり方と似て居る、そこに大に注意を要する次第である。

インフレの防止に就ては歸するところ

一 物資面に於て生産供給の増加を圖り物資交流の適正圓滑を期すると共に消費の規正節約をやる

二 金の面に於て政府及民間の資金撤布を適切にすると共に浮動購買力を吸收し且資金循環性の保全をやる

と云ふことが大切なことは皆人の了知するところであるが要は實行にあ

る。而して我が戦時經濟の現段階に於ては金の面に於て今少し官民が眞劍味を加へねばならぬと云ふ様な推移を示して來て居る。中にも近來浮動購買力の累増が頗る顯著になつて來たことは色々の禍因を醸成してインフレの病弊を深刻化せんとして居るのであるから此の際一段の施策強化を必要且急務とする。

浮動購買力の吸収には公債の應募、長期貯蓄、債券賣出、保險加入等に就て多少割當てとか天引とか強制に近い促進策も採られては居るが、大体今日迄國民の自發的意思に任せると云ふ建前で經過して來たと云へる。蓋し自發的方法による方が國民生活との摩擦も起さずに戦費の調達が出来、生産の擴充が出来ると云ふ譯であるから、なろうことなら此の方針で行くがよからう。然しながら浮動購買力の累増著大なる今日の實情に對處して果してよく此の自發的意思に任せると云ふやり方で間に合ふかどうか。これが今日の重大なる觀點となつて來て居るのである。換言すれば浮動購買力の全部とは云はないが一部は國家の強制力に依て之

を他動的に吸収せねば追いつかぬと云つた事態ではないだらうかと云ふ  
點である。國家の強制力による方法と云つても色々あるが、主なる二、  
三に就て考察して見ると、先づ一は強制公債であるが、之は非常特別の  
場合に一時的の措置としては行はれ得るであらうが、長期に亘つて繰り  
返して行はれ得るものではない。二は強制貯蓄である、英國は所得の一  
部を戦後支拂ふ條件で強制貯蓄をやらして居るが之には國民の充分な理  
解が必要であると共に一般普遍的に行きわたらせにくいと云ふことがあ  
る。尙又右は兩者共國庫の戦後負擔として残るものであつて、戦費調達  
方策となり得るには相違ないが、戦時財政々策の見地から問題が残るの  
である。三は租税である、之は戦時中から經常歳入の確保並増加を圖り  
累を後日に遺さないと云ふ考へ方に加ふるに長期戦下に於て膨脹して行  
く通貨の強制的吸収上から效果的であるとせられる。

戰時財政政策上のみならず通貨政策の見地からも我が租税政策の上には更に検討を加ふべきものがあり、實情の變化に即應して施策を要するものが加はると思はるるが、勿論施策に當つては、一、擔税力に對應して衡平に行きわたらねばならない。浮動購買力の實在する方面並に其の實在する分量を把握し之に即應適合したやり方でなくてはならぬ。二、之が爲めには直接税の外に消費經濟面を捕捉したる課税收納方法を組み合はせる必要が加はる。殊に從來租税も拂はず、貯蓄もしないで來た新興所得層の増大せる現狀に處しては餘程之を目標としての考慮が拂はれねばならぬ。三、但し租税に依てインフレの進行を阻止乃至緩和するには、既にインフレが加速度に激しく進行し出してからは效目が微弱になる。貨幣價値が暴落し出した段階に入つてから、貨幣價値を基礎とする増税をしても其の機能は無力化されてしまふのである。それであるからインフレの濃度化せざるに先立つて税制上の措置を採るべきである。素より租税上の勸案は他の自發的通貨吸收と兩々相俟つて益々效果的とな



#### 第四、半島片影観

今年の植付は満點と云ふに昨今雨が多過ぎると云ふ必配が加はつた。兎角注文通りには行かぬ世の中ではあるが最善の努力を以て人爲を盡す外はない。我が半島開發の業も既に三十有餘年の沿革を見て來たがやはり其の間意の如く順調な途を辿る譯には行かなかつた。然し未曾有の重大時局に直面して一刻の逡巡も許されぬ、是正なり、推進なり又大なり小なり今日の國家要請に副ふて措置遂行に一段と迅速を期すべきものがあらう。

半島の産業が時局的重點主義に轉向して礦工業生産の擴大及新設に着手されてから既に年あり。最も本格的に腰を入れる段階に入つてからも兩三年を経過した。其の内あるものは實際上生産の増大見るべきものがあるが他のあるものは今尙建設途上に彷徨して居るものもある。素より資材の不足とか運搬の不自由とか色々の隘路はあるが、いつとはなしに力が以前の様にはいらなくなり、其の緩慢振りに對する自





か。

三、食糧配給統制の運営がうまく行かないのは内地も同様であるが、寧ろ生必物資の重點的配給に徹底し、他は自由市場に任せる方がよいと云ふ論が多くなつた。一理あると思はれる。殊に生鮮食料品の如きは遣り方次第でうまく行く事例もある。然し從來の制度を解いて自由市場に轉移するには(イ)過程的に準備を相當整へて置かねばならぬ、不用意にやれば逆作用に脅やかされる。(ロ)轉移すべき時期を適當に擇ぶ必要がある、つまり出廻りの容易且多量な時が無難である。(ハ)中途半端な遣り方では却つて悪い者に乘せられる。現に地方へ出たの自由買出しを認めても品物は町の市場に出廻らず、さりとして買出しの餘暇と人手のないものは物を入手することが出来ぬ。然し暫らく眼をつぶつて全然自由販賣にし頓て需給の調節が落ちつくことになれば相場も落ち付くと云ふことを見當にして工作すべきだとの論も起るのである。(ニ)制度の轉移をやつて若しうまく行かないと當務當局者の責任になるか

ら輕々しくはやれないのだと云ふものがあるが、かゝる政策の轉換に下部當局者への責任歸屬を云々するのはとらざる所である。由來責任回避癖は獨り官界のみではない。此の癖は戰時政策の積極性を阻害し無難保守主義、退嬰に陥らしめ易い。然し又此の癖も急には治るまいが下部當局者の責任など問題ではあるまい。適策の斷行は國家的見地より發する。然し如何に名案良策と雖も環境の變轉によつて成果が之に副はぬことにもなる。更に又改める方がよいと云ふことになれば改むべきである。因施策の遂行には各方面の理解と協力を必要とする。一時經過的現象の不味を捉へて直ちに全面的誹議に走るが如き傾向を助長することは極力之を避けしめねばならぬ。新聞紙の記事掲載振り等につきても其の反響の大なる丈け一層慎重を要する。

四 物價政策が崩壞すれば經濟活動の企畫的基礎が浮動することになる。通貨價值の安定が阻害される。物價公定制の無力化と闇の横行が嚴戒されるのは自明の理である。然るに情勢は不幸にして此の憂ふべき

線に沿ふて推移して來た。「インフレ」防止の論議昂まるのは當然である。「インフレ」は一應金の面から取扱はれるが之は物の面との連繫的現象である。故に之が防止策を講ずるに當つても此の兩面の關係者間の緊密なる相互連繫工作を必要とする。爲政者が此の聯合協調動作の促進に意を用ゆべきことの大なるべきは言を俟たない。

其戰時下統制政策強化の結果事務當局の權限は擴大された。而して其の擴大は舊來の氣構の上には必ずしも變化を齎されずに行はれた。自然處理緩慢、威嚴尊重、狹量獨善と云ふ様な風潮が強まり其の結果之が反財<sup>財</sup>作用として事務權限委讓から業務擔當者の責任制へと移行せんとする傾向を生じ、如何にも戰時下にふさわしからぬ悠長さである。然も尙前者の舊套は古着屋でない新店にも今尙順風に翻つて見えるものがある<sup>と云ふ</sup>。要は官民一体の渾然たる協力体制にある、形にとらはれず相互に識見と力量との補給相通を圖る一方、秩序の確立には寛嚴宜しきを得つゝ一段と戰<sup>時</sup>意氣を昂揚すると云ふことに今日の政治





昭和十八年以降

非公表備忘の為の特別意見書

田中

独史料

ヒソ

24/60

3243

三郎氏

史料